

建設産業常任委員会 所管事務調査報告（令和6年度）

1 経過

No.	開催日	主な調査内容
1	令和6年 6月7日	○ 今年度の所管事務調査事項について次の3項目に決定し、各委員が3班に分かれて調査研究を行うこととした。 (1) 産業振興について (2) 農業振興について (3) 観光振興について ○ 管内視察先を決定した。
2	6月10日	○ 行政視察先について協議した。
3	6月27日	○ 執行部から、重点施策と実現する主要事業（6事業）及び次の事項について説明を受けた。 (1) 国道432号交通安全整備事業 (2) 目崎父石1号線（前原橋）整備スケジュール (3) 芦田川右岸線（扇橋）整備スケジュール (4) 大規模盛土2次スクリーニング (5) 備後圏都市計画市街化区域及び市街化調整区域の変更 (6) 空き家状況の速報値
4	7月3日	○ 行政視察先について協議した。
5	7月22日	○ 四季の里、七色農園、かぜのせと、河佐峡、羽高湖へ管内視察を行った。
6	8月2日	○ 管内視察のまとめを行った。
7	8月6日	○ 事務事業評価について、次の5項目に決定した。 (1) 農業ビジョンの実現に向けて (2) グランドデザイン実現に向けたステップ事業 (3) i-c o r e F U C H Uを活用した賑わいづくり (4) 地域公共交通の維持・向上の取組 (5) 恋しきを活用した賑わいづくり事業
8	8月21日	○ 執行部から、次の事項について説明を受けた。 (1) 観光まちおこし事業補助金

		(2) 地域産品等の販路開拓支援事業負担金 (3) 中須排水区・ポンプ場整備事業 ○ 事務事業評価について、「中須排水区・ポンプ場整備事業」を加え、6項目とすることを決定した。
9	8月21日	○ ふくやま環境美化センターへ行政視察を行った。
10	10月7日	○ 執行部から、中須ポンプ場工事施工計画について説明を受けた。 ○ 事務事業評価について、協議を行った。
11	10月9日～11日	○ 岐阜県岐阜市、三重県亀山市、岐阜県関ヶ原町へ行政視察を行った。
12	10月24日	○ 事務事業評価の提言について決定し、本会議で報告する旨を議長に申し出ることを決定した。 ○ 行政視察のまとめを行った。
13	11月5日～23日	○ 市内6箇所で議会報告会を開催した。
14	12月9日	○ 令和6年度主要事業進捗について執行部から説明を受けた。
15	令和7年 1月14日	○ 事業見直しについて協議した。
16	2月10日	○ 所管事務調査のまとめを行い、内容を決定し、本会議で報告する旨を議長に申し出ることを決定した。

2 行政視察

期 間 令和6年10月9日（水）～11日（金）

視 察 先 岐阜県 岐阜市 （人口 399,130 人、面積 203.60 km²）
三重県 亀山市 （人口 49,118 人、面積 191.04 km²）
岐阜県 関ヶ原町（人口 6,178 人、面積 49.28 km²）

岐阜県 岐阜市 ～自動運転バスの実証実験について～

(1) 取り組み内容（聞き取り内容）

ア 運用状況

- ・車両は1台5,000万円で4台、5年のリース（バージョンアップの費用などが含まれる）。運行については、民間へ1億4,000万円/年で委託。
- ・国からの補助金について、初年度は100%補助、2年目50%補助で、5年で

計約 8 億円弱、60%国費。

- ・実証実験期間終了後は、車両等が岐阜市の財産になる。
- ・運賃は無料としているが、料金徴収をすると、オペレーターに二種免許が必要となり、ハードルが上がってしまう。オペレーターはコミュニティバス会社の社員が担当している。
- ・運行ルートは岐阜市が決定した。
- ・バスの法定最高速度は 19 km、センサーは 8 台設置されており、100m先まで認識している。
- ・信号機ごとに、信号の切替情報をバスに転送するシステムと対向車のスピード検知カメラ 2 台を設置している。信号機 1 台当たり 100 万円の費用が必要。
- ・走行場所を担保するため位置情報に走行位置を登録して、走行時に G P S 情報により走行をコントロールされている。
- ・1 回の充電で 200 km 走行可能だが、夏場にエアコンを稼働させると走行距離が 150 km となる。
- ・遠隔監視はできるが、現在は乗車しているオペレーターが対応しており、自動運転走行率は 88%。
- ・5 年以内に、完全自動運転を目指している。

イ 利用状況

- ・1 台当たり 10 人の利用があり、実証実験開始 10 カ月で 4 万人、そのうち 23%は市外の方となっており、観光に寄与している。

(2) 視察で感じたこと等

ア 所感（全体的）

- ・最高速度 19 kmは、移動手段として少し遅いようにも感じるが、観光として町並みを見学するのであれば最適。
- ・通常走行はレベル 4 運転、路上駐車や歩行者などがある場合には、オペレーターによりレベル 2 運転へスムーズに移行し安全に運行できている。
- ・オペレーターは、若い方が多く、ゲーム用のコントローラーのようなものを使ってバスの運転制御をされていて、就労の場にもなっている。
- ・現市長の公約を施策に反映されたものである。また、国等のパイプを活用して全国に先駆けた自動運転の実証実験となっており、国からの補助もスムーズに出されている。
- ・主要幹線や生活道を織り交ぜ、データ構築をして進められている。
- ・鵜飼の船着き場や町並みなど、観光ルートを走っており、市民にも観光客にも喜ばれていると思った。

- ・産学官連携を職員自らが行動をされていることに市の姿勢を感じた。
- ・中心市街地で赤い自動運転バスが運行している風景は、岐阜市の未来へ向けた新しい取り組みであると感じた。また、この自動運転バスは日本での自動運転自動車の発祥地に位置づけられる。岐阜市においては町づくりと地域活性化のための自動運転バスの取り組みで、地域公共交通のあり方に対する新たな視点と感じた。また、コンビニを活用した“バスまちば”や“昼得切符”などの取り組みで市民サービス向上をはかる仕組みづくりができていることは官民連携の成果になると感じた。また、コミュニティバスを支える市民協働の仕組みについての説明が印象に残った。

イ 所感（府中市の観点）

- ・初めて自動運転実証実験の視察を行ったが、思った以上に実用的な運用になってきていると感じた。遠隔操作によるコントロールができる国の規制緩和や、運行ソフトのレベル向上により実現できる時点を見極め、府中市でも市内循環バスへの導入を検討し、市民の交通利便性の向上と運用コストの削減をするためにも注視していく案件であると感じた。
- ・交通事業者を巻き込むことによって、運賃の無料化などが容認されていることが印象的。また、車両については、リース対応とすることで、その期間中は無償でソフトのバージョンアップが可能となっている。いずれにしても、府中市の将来の公共交通のあり方について、しっかりとしたビジョンを持つことが先決だと感じた。
- ・府中市のぐるっとバスもコンビニを活用したバス停になれば良いと思う。

【その他】

- ・道中利用したＪＲの車内では、バスのように「整理券」を受け取る機械が設置しており、また、車掌においては、現金と電子マネー端末で無人駅から利用客に対応されており、福塩線においても電子マネー対応が十分可能ではないか。是非とも導入していただきたいと感じた。

三重県 亀山市 ～鳥獣対策について～

(1) 取り組み内容（聞き取り内容）

- ・鳥獣被害防止対策推進協議会は、亀山市農業委員会、鈴鹿森林組合、鈴鹿農業協同組合、亀山市自治会連合会、三重県猟友会亀山支部、亀山サル会、亀山市で構成し、生物多様性・獣害対策室が事務局を務めている。協議会で決定した事業を実行するため国等への事務手続きを行っておられる。また、協議会の構成員のうち、亀山市自治会連合会・三重県猟友会亀山支部・亀山サル会・

亀山市でサル被害対策チーム「モンキーレンジャーズ」を組織し、市街地に出没するサルの群れの追い払いなどを行っている。

- ・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して、檻の遠隔監視・自動捕獲ができるシステムや長距離無線式パトロールシステム、移動式大形捕獲檻の購入や野生ニホンザル位置情報システム業務をNPO法人 サルどこネットに委託している。
- ・市が委託したサル巡視員7名が毎日交代でパトロールし、位置情報をメール配信している。
- ・地域では受け取った位置情報により市民が追い払い等を行うが、登録者が260名と少なく、新たな登録者も少ないのがネック。
- ・市街地に出没するサルの群れ（亀山C群）の対策が課題で、120回/年の追い払い要請があり、市職員で追い払いやパトロールを行っている。
- ・捕獲した鳥獣の処理については、専用炉で焼却処理している。専用炉は700～800万円で購入している。まとめて処理するために、保冷庫も用意している。
- ・令和6年は、三重大学等と協定を締結し、サル・シカ・イノシシについてGPSによる被害リスクマップを作成し、有害鳥獣の効率的な捕獲により獣害被害の軽減を図る計画とされている。
- ・捕獲隊員確保の取り組みについては、高齢化や担い手の減少が課題。

(2) 視察で感じたこと等

ア 所感（全体的）

- ・有効だった取り組みとしては、サルの群れの問題個体（ボスザル）の駆除ができてからは、追い払い要請件数が減少した。いずれにしても、サルの群れがどのような行動をとっているか、把握することが先決であると感じた。
- ・「サルどこネット」は情報機器を活用した先進事例としての視察は良かったと思う。捕獲したサルに情報機器を装着して群れの活動を調査できる仕組みは良いが、費用の負担が多い。また、モンキーレンジャーズの被害対策チームの設立は素晴らしい取り組みと考える。毎日7人の巡回でどれだけの費用対効果があるのか疑問であるが、サル対策としては必要な予防対策ではないかと思う。

イ 所感（府中市の観点）

- ・府中市もサル被害が多くなっている中であって、市が檻を地域に提供してもなかなか効果がでない状況にある。群れの特定期間や行動域を把握して檻の効果的な設置場所を指定するなどハードルは高いが、地域と連携・協力していく捕獲体制の充実が求められる。

- ・鳥獣対策にどのように取り組むかを被害防止計画に明確にされたい。
- ・捕獲用の檻が有効的に活用できているのかなど、獣害対策出前講座を行うべきと感じた。

岐阜県 関ケ原町 ～関ケ原古戦場記念館について～

(1) 取り組み内容（聞き取り内容）

- ・平成 27 年に関ケ原古戦場グランドデザインを策定され、関ケ原の知名度とブランド力を活かした、地域の活性化と歴史遺産の継承を図るための考え方や方向性を整理され、具体的な取り組みをまとめられていた。
- ・古戦場記念館は県営であり、県から職員や費用の支援を受け、古戦場の活用に取り組んでいる。
- ・岐阜県と関ケ原町が協力・分担して、関ケ原古戦場の観光に力を入れられており、観光客も年々増加している。特に、私たちが関ケ原古戦場記念館の視察をした時も欧米人のインバウンドの方が 10 名以上見受けられた。様々なインバウンド向けの事業が行われている。
- ・古戦場史跡を再整備し、のぼりや家紋などを含めた表示を町の至る所に設置され、古戦場の雰囲気を出されている。
- ・観光協会と連携して、関ケ原駅前観光交流館の整備をして観光案内推進と販売機能促進を図っている。
- ・地域のボランティアなどにより、ガイドや草刈りなども行われている。

(2) 視察で感じたこと等

ア 所感（全体的）

- ・ここが古戦場跡と言われてもただの田舎町にしか感じないが、映像コンテンツを使って戦場を再現し、今の町にあてはめられることでイメージ化が図られていた。「天下分け目の関ケ原」という高いブランド力と観光戦略により、今後も観光客の増加が見込まれると感じた。
- ・県の積極的な取り組みが伺えた。
- ・町民の協力体制が確立されていると感じた。
- ・武将の陣営ごとに整備され、それぞれに公衆トイレがつくってあることに感銘した。
- ・日本人ならだれでも知る「関ケ原の合戦」という知名度抜群の観光ブランドを県と一体となって推進されていることが一番の強みだと感じた。関ケ原古戦場記念館を見学したが、映像コンテンツがわかりやすく、親しみやすいものとなっている。

- ・岐阜県行政主導の取り組みで、関ヶ原古戦場グランドデザインは岐阜市の歴史遺産の継承を活用したブランディングづくりである。記念館内でのドローンを活用した関ヶ原の合戦のグラフィック動画を活用した映像コンテンツや、劇場内の体験シアターの迫力は素晴らしい取り組みだと思う。プロモーション映像には相当な作成・開発費用が費やされている。関ヶ原古戦場記念館の周囲の管理費用も関ヶ原町の費用負担が多く、観光予算の歳出が大ききような気がする。関ヶ原町の取り組みとして住民と行政の協働で関ヶ原古戦場の保存と史跡地の草刈り、清掃を役割分担しながら史跡の景観を維持していることが大切だと感じた。
- ・関ヶ原古戦場の整備を行い、地域の活性化と歴史遺産の継承を図る取り組みがスムーズだと感じた。
- ・方針がまとまっているので、町が行うことと、県が行うことのすみ分けができており、連携が取れていると感じた。
- ・地域を巻き込み、ボランティアによる活動も盛んにおこなわれ、住民と行政の協働ができていると感じた。

イ 所感（府中市の観点）

- ・府中市でも、備後国府跡、翁座や恋しきについて、それぞれが栄えた時代のイメージを映像化して、スマホでその案内場所の映像が見られるようにするなど、過去の様子を頭に浮かべながら利用することで、満足度の向上を図り、既存の観光コンテンツを生かして利用者・観光客の増加を図れるのではないかな。
- ・府中市においても備後国府の活用がなかなか難しい中で、費用の問題はあるが、映像コンテンツなどがどれだけ利用できるかが鍵だと感じた。
- ・府中市においても、上下地域の歴史文化遺産や矢野温泉国民保養温泉地の活用を広島県と連携していくことで、観光PRや地域の活性化を図り、文化遺産の継承につなげることができればよいと考える。

3 意見交換会・管内視察

◆管内視察

視 察 日：令和6年7月22日（月）

視察場所：四季の里

相 手 先：（ジャパンプリーンスービス）

(1) 相手先の意見（聞き取り内容）

- ・これまで行われていた行事をこれからも行うため、地域のご支援が必要なので、行政には地域との連携をサポートしていただきたい。

- ・指定管理者と現場担当との連携がうまく取れていない。
- ・これから繁忙期に入るが人手不足のため施設の管理に苦慮している。
- ・管内視察の申し入れをしているにもかかわらず、対応者が不在であった。対応に当たっていただいた以前からの担当者によると、今日の管内視察も聞いていないとのことだった。
- ・地元担当者によると、指定管理者が変更になったが、草刈り作業員は2名しか来てもらえず、とても対応できないので、以前の体制に戻してもらい対応している。
- ・トレーラーハウスが8月に車検を迎えるが、車検代が高額である。

(2) 意見交換で感じたこと等

- ・雑草がよく伸びる時期であるが、地域の方が3名、草刈りをされていて、手入れは行き届いている様子。
- ・夏休みに入り、最初の休日明けの月曜日のためか、残念ながら来場者はほとんどいなかったが、どのようにして来場者を増やしていくのかお聞きしたかった。
- ・管内視察をすることを指定管理者に伝えてあったが、現場にはその情報が届いていなかった。現場の責任者は驚かれていたが丁寧に対応いただいた。残念ながら、指定管理者（本社）と現場との連携や管理運用体制には疑念を抱かざるを得ない。
- ・指定管理者と現場の連携がとれていないことが気になる。今後、指定管理者として現場の声をどのように反映して業務改善に取り組むのか。また、府中市との連携も必要と思われる。今後の指定管理者としての評価をしっかりと見ていく必要がある。
- ・平日とはいえ、職員の少なさに不安を感じるとともに、繁忙期であるのにこのような状況でよいのかと運営形態に不安を覚えた。
- ・職員数が少なく、随所に施設の整備の不備を感じた。また、計画書とは随分変更された運営形態となっていると感じた。
- ・指定管理者が変更になり、このような状況で「うまくいくのか」と、疑念を感じた。

トレーラーハウスの車検は無駄だと感じた。

- ・トレーラーハウスは撤収されたい。毎年の車検費用を考えると、その他の利用方法を考えられたい。
- ・キャンプ場は新たな指定管理者としてスタートしているが、代わり映えがないと感じた。
- ・管理者が少なく、利用者に満足を与えられているか疑問。
- ・抜き打ち的に担当課もチェックするべきである。
- ・現場と本部のコミュニケーションを十分にされるべき。

視 察 日：令和6年7月22日（月）

視察場所：河佐峡

相 手 先：（ジャパńクリーンサービス）

(1) 相手先の意見（聞き取り内容）

- ・指定管理者との連携や関係に不満がある。
- ・夏休みの繁忙期において現在の人員では顧客対応が困難である。
- ・水難事故に対しての危機管理ができていない。早急に対策が必要である。
- ・パークゴルフ場の管理も人手不足のために十分にできない。
- ・管内視察の申し入れをしているにもかかわらず、対応者が不在であった。対応に当たっていただいた以前からの担当者よると、今日の管内視察も聞いていないとのことだった。
- ・指定管理者が変更になって、5月ぐらいから消耗品を買えず、供給もないとのこと。
- ・以前は8人体制で河佐峡の施設管理にあたってきたが、現在は3～4人体制で行っている。人員不足で安全確保ができないため、ウォータースライダーが休止になっていた。さらに、草刈りも十分にできない状態。

(2) 意見交換で感じたこと等

- ・河佐峡は水辺のため、過去に水難死亡事故も発生しており、係員の人員配置など安全管理体制がどのようなになっているか聞きたかった。
- ・この時期、ウォータースライダーが稼働していないのは、管理運用体制が機能していないと感じざるを得ない。
- ・指定管理者と現場との連携ができていないので、今後の河佐峡の運営が気になる。今後の事業計画や施設管理のための説明を現場と話し合う必要がある。指定管理者に対する現場の声は届いてない。指定管理者としての今後の運営管理について府中市との話し合いも必要である。
- ・平日とはいえ、職員の少なさに不安を感じるとともに、この時期が繁忙期であるのにこのような状況でよいのかと運営形態に不安を覚えた。
- ・職員数が少なく、随所に施設整備の不備を感じた。また、計画書とは随分変更された運営形態となっていると感じた。
- ・管内視察の申し入れをしているにもかかわらず、担当者が不在であったことは、不誠実と感じた。
指定管理者が変更になり、このような状況で「うまくいくのか」と、疑念を感じた。
- ・キャンプ場は新たな指定管理者でスタートしているが、代わり映えがないと感じ

た。

- ・職員が少なく、利用者に満足を与えられているか疑問。
- ・抜き打ち的に担当課もチェックするべきである。
- ・現場と本部のコミュニケーションを十分にされるべき。
- ・安全に楽しめる場になるよう目が行き届くことを願う。

視 察 日：令和6年7月22日（月）

視察場所：羽高湖

相 手 先：（ジャパńクリーンサービス）

(1) 相手先の意見（聞き取り内容）

- ・夏休みに入り最初の休日明けの月曜日のためか、残念ながらここも来場者はほとんど見られなかった。
- ・指定管理者の社員2名で施設管理をしている。
- ・芝刈り等の管理はしっかりとしている。
- ・トイレは新設されておりきれいである。
- ・管内視察の申し入れをしているにもかかわらず、対応者が不在であった。

(2) 意見交換で感じたこと等

- ・トイレがきれいに整備されており、ここもおもてなしトイレに加えてはどうか。
- ・スカイサイクルは整備が行き届いておらず、残念な状態にある。
- ・平日とはいえ、職員の少なさに不安を感じるとともに、この時期が繁忙期であるのにこのような状況でよいのかと運営形態に不安を覚えた。
- ・職員数が少なく、随所に施設整備の不備を感じた。また、計画書とは随分変更された運営形態となっていると感じた。
- ・管内視察の申し入れをしているにもかかわらず、対応者が不在であったことは、不誠実と感じた。
- ・キャンプ場は新たな指定管理者としてスタートしているが、代わり映えがないと感じた。
- ・管理者が少なく、利用者に満足を与えられているか疑問。
- ・抜き打ち的に担当課もチェックするべきである。
- ・キャンプ場3施設とも、ペット同伴を禁止されているが、ペット同伴ができることで利用する人が多かったと聞くので、以前のように同伴できるようにしたほうがいいのではないか。

視 察 日：令和6年7月22日（月）

視察場所：かぜのせと

相 手 先：谷脇 正明 様

(1) 相手先の意見（聞き取り内容）

- ・昨年度、新規就農者として上下町、国留地区に入植してアスパラ、キャベツ栽培の就農を開始した。
- ・アスパラ収穫イベント行事を行いたい。トイレの設置が必要である。
- ・施設の農道の舗装が必要との要望がある。
- ・今後の事業計画を立てて積極的に農業収益の確保に取り組みたい。

(2) 意見交換で感じたこと等

- ・新規就農者として福山から移住してアスパラ栽培に取り組んでおり、今後の事業展開については農林課との連携と支援が必要である。こだわりのあるアスパラ栽培でブランド化を図り農業所得確保ができるとよい。
- ・トイレと農道整備については地権者とも協議をして、早急に進めるべきと感じた。
- ・大変意欲的に農業に取り組まれていると感じた。
このような若者を巻き込み、府中市農業振興ビジョンにもとづき、府中市農業のブランド化を図ることが重要である。そのためには、官学連携を図り、科学的な農業を目指して、「府中市農業ブランド化推進協議会」のような組織が必要であると感じた。

視 察 日：令和6年7月22日（月）

視察場所：上下七色農園

相 手 先：林 新二 様

(1) 相手先の意見（聞き取り内容）

- ・アスパラ栽培と出荷は順調である。
- ・売り上げは伸びているが収益の確保ができていない。
- ・収穫には時間制のアルバイトを雇っている。
- ・農協への出荷がメインである。
- ・水の管理ができていないので、水不足が気になる。
- ・農業用水の取水口の整備（現在の設備では取水する際、泥も混ざってくるのでポンプが詰まる。用水路から水が引ければ、その問題が解決するので、資金的な応援をしてほしい。）

(2) 意見交換で感じたこと等

- ・販路がＪＡと限られているようで、収量がふえていった際の稼ぐ農業を考えると販路拡大などの支援が必要と感じた。
- ・新規就農後の事業経営を続けるために水の管理と確保が必要である。地域と農林課の連携で水不足の対応を行う必要がある。Ｇ７でアスパラが採用され、ブランド化ができています。今後は農業所得確保のために価格を引き上げることや、収益管理が必要と思われる。
- ・水利権等については、水利権者と十分な協議をされ解決すべきことと感じた。
- ・大変意欲的に農業に取り組まれていると感じた。

このような若者を巻き込み、府中市農業振興ビジョンにもとづき、府中市農業のブランド化を図ることが重要である。そのためには、官学連携を図り、科学的な農業を目指して、「府中市農業ブランド化推進協議会」のような組織が必要であると感じた。

4 事務事業評価

議員が事業の目的や内容、事業量等を確認し、その成果を妥当性・有効性・効率性等の観点から、その問題点等を明らかにする事務事業評価を実施した。

本委員会では、次の５事業を抽出し、評価を行った結果、次のとおり意見を付して、来年度の予算編成への反映を求め、市長に対し提言した。

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| (1) 農業振興ビジョンの実現に向けて | 【一部見直しのうえ継続すべき】 |
| (2) グランドデザイン実現に向けたステップ事業 | 【一部見直しのうえ継続すべき】 |
| (3) i-coreFUCHU を活用した賑わいづくり | 【現状のまま継続すべき】 |
| (4) 地域公共交通の維持・向上の取組 | 【一部見直しのうえ継続すべき】 |
| (5) 恋しきを活用した賑わいづくり事業 | 【一部見直しのうえ継続すべき】 |
| (6) 内水浸水対策事業 | 【抜本的な見直しのうえ継続すべき】 |
- (中須排水区・ポンプ場整備事業)

5 所管事務調査、管内視察、意見交換会などを踏まえ、具体的な対応を求めるもの

(1) 産業振興について

府中市産業振興ビジョンに基づき、産業係室が企業への個別訪問により、それぞれが抱える課題の相談を受け、技術指導等により解決に導くなど効果を発揮しているが、早期に市内の全企業訪問を完了させ、大田区産業振興協会が実施している産業連携事業のような戦略的体制の構築を望む。

また、府中市には車産業に関連した企業が多く、ＰＨＥＶ化や、その先のＥＶ化による影響を受けることが予想されることから、産業係室として短・中長期

的なビジョンを国、県等と共有して、次世代に向けた産業構造の変革やその販路開拓のための支援に取り組まれない。

(2) 農業振興について

少子・高齢化の急速な進展により、農業の担い手は大幅に減少し、本市の農業を取り巻く環境は危機的状況にある。

耕作放棄地がふえる中、農地の保全及び持続可能な農業・農村の確立には、多様な担い手の確保が必要であり、そのためには就農・育成支援の強化と「稼ぐ農業」の実現が不可欠である。

「稼ぐ農業」を実現するためには、府中市農業振興ビジョンに沿って産官学連携による科学的根拠に基づいた地域資源循環型有機農業の構築、さらに農業6次化の推進に向け、ブランディングデザイナーを招くなど、具体的なブランド戦略を策定し、迅速に実行していただきたい。

また、鳥獣被害防止対策については、集落ぐるみによる取り組みを基本に「獣を近づかせない集落」形成を目指し、ICTを活用した作業の省力化や被害に強い作物の導入など、より一層の対策強化を図られたい。

(3) 観光振興について

市内キャンプ場（四季の里・河佐狭・羽高湖）は、ジャパńクリーンサービスによる管理者となり運営されることとなった。

新たな体制でのスタートであるため、戸惑いや課題もあると考えるが、現場の声や改善点などの共有を図られ、利用者への満足度を高められるサービスをおこない、魅力のある施設とされたい。

その他、市内に訪れていただけている観光地（三郎の滝・オオムラサキの里・七ツ池など）についても継続して整備と魅力の発信をされたい。

歴史的建造物の保存・活用事業については、備後国府跡・恋しき・翁座などがそれぞれに栄えた時代のイメージを映像化するなどでPRを含めた利活用を検討されてはと考える。

国・広島県との連携を積極的におこない、地域の活性化を図ることで、文化遺産の継承と観光地としての整備を図られたい。